

## 再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道185号 安芸津バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：広島県 東広島市安芸津町風早 至：広島県 竹原市吉名町八代谷			延長	6.1 km
事業概要	一般国道185号は、広島県呉市から広島県三原市までを結ぶ延長約7.7kmの主要幹線道路である。 安芸津バイパスは、広島県東広島市安芸津町風早から竹原市吉名町矢代谷を結ぶ延長6.1kmのバイパス事業である。 事業目的は、線形不良の解消、災害時の代替ルートの確保、安全性・利便性の向上、救急医療活動の支援、安定した輸送活動の支援等である。				
	H11年度事業化	H10年度都市計画決定	H13年度用地着手	H17年度工事着手	
全体事業費	約225億円	事業進捗率 (令和3年3月末時点)	54%	供用済延長	1.5 km
地域の防災面の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成16年には、台風による路面冠水や越波により国道185号で全面通行止め等が発生。また、平成30年7月豪雨では、国道185号で法面が崩落し、2日間にわたる全面通行止めが発生した。</li> <li>また、当該箇所は地震発生時の津波浸水想定範囲に該当しており、国道185号では津波浸水により通行機能に障害が発生する可能性がある。</li> </ul>				
課題を踏まえた対策・事業内容	・国道185号（安芸津バイパス並行区間）には、車道部幅員が狭く平面曲線や縦断勾配の急な区間などの道路線形不良箇所や歩道未整備区間が存在しており、安全性が損なわれている。これらの課題を解消するためにはバイパスによる整備が必要となる。				
事業の効果等	○災害等に対する不安感の解消 ・災害時の迂回ルートの確保による不安解消効果 ・通行止め時の医療サービスが享受できなくなる不安解消効果 ・線形不良箇所の走行に伴う精神的疲労の軽減効果 ・新設道路への交通転換による並行現道の歩行者・自転車通行の快適性向上効果			費用	(残事業) / (事業全体)
				112 / 268億円	
				(事業費：92 / 241億円 維持管理費：20 / 27億円)	
関係する地方公共団体等の意見	広島県知事の意見：継続とする対応方針については妥当である。 一般国道185号安芸津バイパスは、現道部において、台風などの異常気象時に越波や路面冠水による通行止めが発生しており、防災上の観点から特に重要な道路です。現在、一部区間が供用されているものの交通転換が進まず、バイパスとしての機能が十分に発揮されていない状況となっております。引き続き、コスト縮減を徹底していただきながら、早期完成に向けて確実に整備を進めていただきたい。				
事業評価監視委員会の意見	・事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。 ・審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。				

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年3月に国道185号休山改良事業（休山トンネル4車線化）が完成。</li> <li>竹原市は、令和元年5月に日本遺産「北前船寄港地・船主集落」に追加認定。令和2年4月に「道の駅たけはら」がリニューアルオープン。</li> <li>呉駅交通ターミナル整備事業が令和3年度に新規着手。交通流円滑化や移動快適性の向上、防災機能向上等の効果が期待されている。</li> </ul>	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
<p>令和3年3月末時点で、事業全体の進捗率は54%、用地の進捗率は97%である。</p> <p>現在までに1.5kmを開通している。</p>	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
引き続き早期全線開通を目指し事業を推進する。	
施設の構造や工法の変更等	
技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
事業の必要性に変化はなく、防災面の効果が見込まれるため。	
事業概要図	

- ※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。
- ※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。
- ※3 総費用の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。